

令和 6 年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立東井高野小学校

令和 7 年 2 月

大阪市立東井高野小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 本校の教育目標「豊かな心を育み、自らの能力を伸ばすたくましい子どもを育てる。」を達成する前提として、学校が児童にとって「楽しい」と感じることができる場である必要がある。しかし毎年、8%程度の児童が「楽しい」と感じておらず、今日的課題であるいじめや不登校問題とも密接に関係していると考えられる。家庭や関係諸機関との連携も含め、学校全体の課題として取組をすすめる必要がある。
- 規範意識や自己有用感の醸成、他者の尊重や将来を見据えた自己イメージの獲得のためには欠点も含めて「自分のことが好き」という自己肯定感が前提条件となる。約15%の児童が自己肯定感をもてずに学校生活を送っていることは課題であり、豊かな体験を通して一人ひとりの良さを伸ばす取組みをする必要がある。
- 大阪市小学校学力経年調査の結果の標準化得点では95～105ポイントの中で推移し、また、全国学力・学習状況調査でも全国平均とは開きがあり、学習内容の定着、基礎・基本の定着に課題があることがわかる。家庭とも連携して自主学習の確立や読書活動を充実していく必要がある。また、各種学力調査においても無回答率が高く、学習に対して無関心や自分ごととして取り組めていない児童が少なくない。そこで、学習への参加感を伴った「わかる」授業を積み重ねることで、学習に対しての意欲や関心を高めることが大切であると考える。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点では男女とも全国平均を上回っている。これまでの体育科学習の積み重ねの成果と考えられる。また、広い運動場や一部の芝生化など、これらを活用して日頃から遊び・運動に親しむ機会が多いことと、地域での活動が功を奏している。一方で運動が好きな児童とそうでない児童の二極化もみられ、それらが課題として考えられる。
- 教育活動にICT機器を導入し授業や学校活動に活用してきた。さらに一人一台端末を学習や生活指導に積極的に使用している。しかし、ICT機器と一人一台端末を連携しての有効的な活用方法や使用方法、情報モラルなどに課題があり、今後は、より良い活用の場を構築することが必要である。
- 学校が日常の取組を着実に推進する中で、教職員が子どもたちの前で健康で生き生きと働くことができ、子どもたち一人ひとりに向き合う時間の確保が課題である。そのためには教職員の長時間勤務の解消をはじめ、学校業務の精選をはじめとした「働く範囲」の明確化と、教職員が「働きがい」を感じられる取組をすすめる必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合 100%をめざす。
- 令和 7 年度の全国学力学習状況調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和 6 年度全市目標(81. 2%)以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 校内調査における「授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合割合 100%をめざす。
- 令和 7 年度の全国学力学習状況調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和 7 年度全市計画目標(35. 0%)以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を令和 7 年度全市計画目標(62. 6%)以上にする。
- 令和 7 年度末の校内調査における「正しく手洗いをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 97%以上にする。
- 令和 7 年度末の校内調査における「いつもハンカチを身につけている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。
- 校内調査における「給食の月目標を守ることができましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 80%以上にする。
- 「ゆとりの日」を週 1 回以上設定する。年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 80%以上にする。学校閉庁日については、夏季・冬季休業中に 3 日以上設定する。
- 令和 7 年度の大阪市小学校学力経年調査における「学校図書館やその蔵書を活用した授業を行いましたか」に対して、「週に 1 回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合を令和 7 年度全市計画目標(80%)以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- 全国学力学習状況調査における「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合 100% をめざす。
- 全国学力学習状況調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和 6 年度全市目標(81. 2%)以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 校内調査における「授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合 100% をめざす。
- 全国学力学習状況調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和 6 年度全市目標(34. 8%)以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を令和 6 年度全市目標(62. 3%)以上にする。
- 校内調査における「正しく手洗いをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度水準（前年度同調査 96. 5%）にする。
- 校内調査における「いつもハンカチを身につけている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度（前年度同調査 86. 6%）以上にする。
- 校内調査における「給食の月目標を守ることができましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 75%以上にする。
- 「ゆとりの日」を週 1 回以上設定する。年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 70%以上にする。学校閉庁日については、夏季・冬季休業中に 3 日以上設定する。
- 大阪市小学校学力経年調査における「学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行いましたか」に対して、「週に 1 回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合を令和 6 年度全市目標(78%)以上にする。

大阪市立東井高野小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>○全国学力学習状況調査における「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合 100%をめざす。</p> <p>○全国学力学習状況調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和6年度全市目標(81.2%)以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>職員全体でいじめの早期発見や、不登校傾向にある児童についての共通理解に努める。また、関係児童への細やかな対応・配慮を行えるよう、学校全体で指導・支援体制を整える。</p> <p>(いじめへの対応) (不登校への対応)</p> <p>指標 「心の天気」を毎日実施し、「相談機能」を含めて複数の職員で確認し、児童の心の変化に素早く対応できるようにする。また、これらの情報を「アセス調査の結果」などとともに共有し、個に応じた指導・支援方法の手立てを組織として考え、共通理解する生活指導報告会を、毎学期複数回実施する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>災害など緊急事態において、自らの命を守るために避難行動をとることができるよう、目的意識をもった防災教育を推進し、防災への意識を高める。</p> <p>(安全教育の推進)</p> <p>指標 火災・防犯・地震・津波を想定した避難訓練を年間3回、引き渡し訓練を1回実施する。各訓練の前後には、自分たちができることについて考える時間を設ける。また、各教科などで、災害や防災に関する学習を行う際には、児童の発達段階に応じて、自助、共助、公助についての視点を持てるようにする。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>50周年記念イベントを含めた児童会行事の充実、児童のたてわり（異学年交流）活動の充実を図り、児童にとって楽しい学校生活ができるようにする。</p> <p>(不登校への対応)</p> <p>指標 ・児童会を中心に、児童会行事やたて割り活動の際に、がんばったことや良いことを褒めて自己肯定感を高めるフィードバックを行う。</p> <p>・全学年が関わるイベントを3つ以上行う。また、全学年が学年間の交流を1回以上行う。</p>	A
<p>取組内容④【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】</p> <p>校外学習やゲストティーチャー招聘、遠足・社会見学などの学習機会を充実させる。また、児童が将来の夢や目標、自己有用感を持つとともに自他を尊重する心を育む。</p> <p>(キャリア教育の充実)</p> <p>指標 校長経営戦略予算も活用し、校外学習やゲストティーチャー招聘、遠足・社会見学などの学習機会を、全学年で年間複数回実施する。また、学期ごとや行事ごとにキャリアパスポートや振り返りシートを活用し、自己の成長を振り返る機会とする。</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】</p> <p>教育活動全体を通じて、発達段階に応じた系統的な人権教育を実践し、児童が社会の様々な人権課題に対する正しい理解と認識を持てるようにする。</p> <p>(人権を尊重する教育の推進)</p> <p>指標 人権教育年間指導計画に基づいた取り組みを学期に1回以上行い、年度末に成果と課題を共有する。</p>	A
<p>取組内容⑥【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】</p> <p>教育活動全体を通じて、全児童の参加感を高めることで、自他の尊重を育み、「共に学び、共に育ち、共に生きる教育」を推進する。</p> <p>(インクルーシブ教育の推進)</p> <p>指標 校内調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合 100%を目指す</p>	B

年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析

年度目標

○全国学力学習状況調査における「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合は9.2%であった。

○全国学力学習状況調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は96.1%であり、目標(81.2%)を上回ることができた。

取組内容①心の天気を毎日入力させ、複数の職員で確認することで、児童の心の変化について共有することができた。また、生活指導報告会やいじめ対策会議を通して、いじめ事案がないか確認したり、いじめアンケートの事後対応を共有したりすることで、個に応じた支援・指導方法を職員全体で共有することができた。アセス調査の結果については、職員全体での共有には至らなかった。

取組内容②火災・防犯・地震津波・引き渡しと各種訓練を計画通りに実施することができた。担任の話を中心に訓練時の約束や訓練の意義などについて事前に学習することができた。また、自助・公助・共助について、学年に応じて話をすることで、防災意識を高めることができた。

取組内容③児童会活動の充実として、集会委員会を中心にたてわり班活動による児童集会を定期的に実施した。50周年記念イベントでは、児童会を中心にさまざまな方法を用いて全員参加で学校を盛り上げることができた。その他児童会を中心とした活動（開会式・閉会式・○○運動・スローガン決め・子どもフェスティバル・全校遠足・たてわりミニ運動会等）を行い、学校全体を盛り上げていく活動を進めることができ、児童にとって楽しい学校生活を送る一つの手助けとなった。異学年交流も各学年複数回行うことができた。

取組内容④年度当初に計画していた、年間複数回の校外学習やゲストティーチャー招聘事業は、全学年計画通り実施することができた。1学期初めと運動会、2学期末のキャリアパスポートでの振り返りも実施し、児童が自己の成長を振り返る機会となった。

取組内容⑤人権教育年間指導計画に基づいた取り組みを計画通り行えた。また、年度末には、学年ごとの取り組みの成果と課題について共有を図ることができた。『人権』というものについて考え、人権に関する標語を作るという経験もすることができた。『いじめについて考える日』には、朝会で話を聞いたり人権に関する動画を見たりして、全学年児童が、いじめというものに対しての自分の思いを書いた。それにより、人権意識を高めることができた。

取組内容⑥校内調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、中間評価の89.4%を上回り、90.5%であった。今年度は、児童会活動での周年記念の取り組みが充実したものとなり、児童一人ひとりの参加感を高めることができた。また、自己肯定感を高める取り組み(ほめほめ大作戦・いいところ見つけなど)に、学級や学年で取り組んできた成果が出ている。

次年度への改善点

年度目標

- 次年度も目標の100%に近づくことができるよう、取組を継続する。
- 次年度も取組を継続することを通して、児童の自己肯定感が高まるよう教育活動を推進する。

取組内容①生活指導全体会やいじめ対策会議などを通して、心の天気や相談機能、アセス調査の結果をもとに、個に応じた支援・指導方法の手立てを組織として考え、エビデンスを基にした児童理解を職員全体で共有していく。

取組内容②訓練を通して学習したことをワークシートに書いたり、学年に応じた動画資料を活用し理解を深められるようにしたりすることで、児童の防災意識をさらに高めていく。

取組内容③次年度も、児童会活動を活発にさせ、たてわり班による活動を通して、異学年間の交流の場を設け、高学年児童が低学年児童を勞わったり助けたりすることで自己肯定感を高め、低学年児童はそのような高学年の姿に接することで、高学年に向けて、“自分もこうなりたい”という自己肯定感を高める機会とする。今後も、全学年が関わるイベントを通して、一人ひとりの自己肯定感や自尊感情を高めていく。また異学年交流では、本年はそれぞれの学年で、他学年と交流を各自行っていたが、系統だてて計画的に進めていけるように組織していく。

取組内容④次年度も、社会見学などの校外学習や、ゲストティーチャー招聘授業などの豊かな心を育む取り組みを計画・実施していく。これらのことを通して、児童が自己有用感を高めたり、将来への夢や希望を獲得したりする中で、自らのキャリアを考える機会としていく。

取組内容⑤引き続き、日ごろからの人権意識をもつことができるよう、系統的な実践を行っていく。

取組内容⑥目標とする子ども像をもち、学校全体で『いいところ見つけ』のような取り組みを行うなど、異学年同士でも良さを共有し、自己肯定感が高まるような取り組みをしていくことも考えていく。

大阪市立東井高野小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○校内調査における「授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合 100%をめざす。</p> <p>○全国学力学習状況調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和6年度全市目標(34.8%)以上にする。</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を令和6年度全市目標(62.3%)以上にする。</p> <p>○校内調査における「正しく手洗いをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度水準(前年度同調査 96.5%)にする。</p> <p>○校内調査における「いつもハンカチを身につけている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(前年度同調査 86.6%)以上にする。</p> <p>○校内調査における「給食の月目標を守ることができた」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>校内研究において、過去3年間の研究を活かした「主体的・対話的で深い学び」に焦点をあて、授業の充実と改善を図る。 (言語活動・理数教育の充実)(「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p> <p>指標 全体研究授業、部内研究授業をあわせて年間6回の校内研修を行う。また、「総合的読解力育成カリキュラム」の教材に年間1つ以上取り組む。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>さまざまな学習の中で、「自分の思い」や「自分の考え」を伝え合うための対話や交流を取り入れ、児童の参加感を大切にした授業づくりを計画的に取り組む。 (「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p> <p>指標 言語力を活かした対話と交流をするために、各教科の年間指導計画をもとに、学習したことを活用できる場を設定し、年間に1回以上取り組む。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>国語科のモジュール学習で視写に取り組み、書く力へとつながる基礎を培う。 (言語活動・理数教育の充実)</p> <p>指標 国語科のモジュール学習を週1回実施する。また、決められた時間で視写ができる量を増やす。</p>	A
<p>取組内容④【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>授業で学習したことを振り返ったり深めたりするために、引き続きプラスノートを活用し、家庭学習の習慣へとつなげる。 (「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p> <p>指標 校内調査における「学校で出された宿題以外に自分で計画を立てて学習(予習・復習など)をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童を前年度(75.2%)以上にする。</p>	A
<p>取組内容⑤【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】</p> <p>運動に親しむ機会を設けたり、用具の充実を図ったりして、進んで体力づくりに取り組めるようになる。 (体力・運動能力向上のための取組の推進)</p> <p>指標 運動委員会を中心に、学期に1回体を動かす活動を計画し、実施する。また、遊びの紹介をすることによって遊びのレパートリーを増やし、外遊びを充実させる。</p>	B
<p>取組内容⑥【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】</p> <p>手洗いや、ハンカチを身に着ける習慣がつくよう強調習慣を設定し、健康保持に対する意識を高める。 (健康教育・食育の推進)</p> <p>指標 保健美化委員会が中心となり活動する強調週間を年複数回実施することで、健康保持に対する意識を高める。</p>	A
<p>取組内容⑦【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】</p> <p>朝ごはんの大切さを知り、朝ごはんを食べると生活リズムが整うことや、一日の活動への充実につながることを理解する。 (健康教育・食育の推進)</p> <p>指標 朝ごはんの大切さについての健康教育、食に関する指導を年間1回以上する。さらに、通信を1回以上発行し家庭への啓発を行う。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析

年度目標

- 校内調査（1月）における「授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は96.1%であり、中間評価（10月実施）の93.5%より向上している。
- 全国学力学習状況調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は51%で、目標(34.8%)を上回ることができた。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合は57.0%であり、目標(62.3%)を下回った。
- 校内調査（1月）における「正しく手洗いをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合は98.5%で前年度同調査(96.5%)を上回ることができた。
- 校内調査（1月）における「いつもハンカチを身につけている」に対して、肯定的に回答する児童の割合は95.5%であり、前年度同調査（86.6%）を上回ることができた。
- 校内調査（1月）における「給食の月目標を守ることができた」に対して、肯定的に回答する児童の割合は96.9%であり、目標の80%を上回ることができた。

取組内容①研究授業や校内研修を計画通り行い、討議会では、成果や課題についての交流を行うことができた。各学年で年間目標を立てて取り組んだ『言語力育成に向けての取り組み』は、中間・期末と振り返りを行い、実施状況を全体で交流することができた。総合的読解力は、それぞれの学年で計画通り年1回以上の取り組みを行うことができた。テーマをもとに児童は新たな発見をしたり、思考を巡らせたりすることができていた。

取組内容②身につけてきた言語力を活用した研究授業を各学年1回以上行い、「主体的・対話的で深い学び」に向けて取り組むことができた。また、言語力を活かした学習の交流として、各学年ごとに掲示し、学校全体で共有し、学びあう場をつくることができた。

取組内容③モジュール学習で取り組んだ観察では、語のまとまりを意識したり、まとまった文章量を限られた時間で書いたりすることを目標に行った。児童は、他の書く活動への抵抗も少なくなり、前向きさが見られるようになってきたため、積み重ねが活かされているように感じた。

取組内容④校内調査における「学校で出された宿題以外に自分で計画を立てて学習（予習・復習など）をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童は92.3%と目標の75.2%を大きく上回った。自主学習ノート（プラスノート）を継続してきたことで、習慣となっている。また、学習の内容を紹介し合い、交流することで、取り組む内容や進め方を自分で考えて行うことができるようになっている。

取組内容⑤学級での取り組みや声掛け、委員会からの遊びの紹介などを通じて、運動に親しむ機会を継続的に推進することができた。用具の充実については、新しいボールを増やしたり、一輪車の整備をしたりすることができた。

取組内容⑥手洗い週間を継続して設定し、感染症対策を図るとともに、ハンカチチェックデーを活用し、ハンカチを身に着けることにも重点を置く取組をすすめることができた。

取組内容⑦朝ごはんについて、児童への長期休業中の朝ごはんカレンダーにより啓発を行うことができた。給食だよりの配布や、食に関する指導時、保健指導においても朝ごはんの大切さについて話すことができた。

次年度への改善点

年度目標

- 次年度も目標の100%に近づくことができるよう、取組を継続する。
- 次年度も対話や交流のある学習を、継続して行っていく必要がある。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果をもとに分析を行い、改善点を整理し、教育活動に反映させる。
- 【取組内容⑥】参照
- 【取組内容⑥】参照
- 次年度も、目標意識をもてる給食の時間となるよう、取組を継続する。

取組内容①総合的読解力は、各学年が取り組んだ内容(テーマ)を職員間で共有することで、次年度のテーマを決める際の手掛けりとなるようにし、系統立てた学びとなるよう考えていく。

取組内容②今年度の研究で年間の計画を立てて行ってきた言語力育成に向けた取り組みを、今後も継続していき、さらに力を高めていけるようにする。

取組内容③引き続き、書く力の向上に向けて、視写などの継続的に行える学習に取り組んでいく。

取組内容④引き続き、プラスノートの活用を週1回以上行い、自主学習に取り組むという習慣が身につくようにしていく。校内調査の結果より、高学年になるにつれ、自主学習への意欲が低下する傾向がみられるため、必要性を感じることができる取り組みを継続していく必要がある。

取組内容⑤運動委員会の遊び紹介の取り組みを継続して行い、遊びのレパートリーを増やす。また、学級での取り組みや集会等を活用して、運動に親しむ機会を継続的に設ける。

取組内容⑥ハンカチを持ってきている児童の割合は増えたが、手の洗い方を見ると、年々雑になっているので、改めて意識を高める指導が必要である。

取組内容⑦食に関する指導や給食だよりを通してさらに意識を高めていく。また、給食委員会から発表をしたり、各学年の食育の授業時に朝ごはんの大切さを伝えたりしていく。給食の月目標についても意識して取り組むことができるので、さらに次年度は月初めに朝会や昼食時の放送等で周知していく。

大阪市立東井高野小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 75% 以上にする。</p> <p>○「ゆとりの日」を週 1 回以上設定する。年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 80% 以上にする。学校閉庁日については、夏季・冬季休業中に 3 日以上設定する。</p> <p>○大阪市小学校学力経年調査における「学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行いましたか」に対して、「週に 1 回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合を令和 6 年度全市目標(78%) 以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号 6、教育DX(デジタルフォーメーション)の推進】 系統的なプログラミング学習に取り組めるように、指導案の充実と見直しを図る。また、タイピングや電子新聞など、学習者用端末を活用する取り組みの充実を図る。 (ICT を活用した教育の推進)</p> <p>指標 各学年、年間に 1 つ以上のプログラミング学習や学習者用端末を活用した取り組みを行う。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向番号 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 80% 以上にする。また、長期休業中は計画的に休暇等取得する。平素は ICT 機器を活用し、授業準備や生活指導などの業務の効率化を図る。 (働き方改革の推進) (教員の資質向上・人材の確保)</p> <p>指標 年次有給休暇を 10 日以上取得、夏季・冬季休業日の閉庁日は 3 日以上設定するなどし、教職員の健康管理を行い、働き方改革に努める。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向番号 8、生涯学習の支援】 図書館補助員や図書ボランティアと連携し、学校図書館が落ち着いて読書を行うことができる安らぎの場、そして、開かれた学びの場となるよう環境を整える。また、読書週間等にも一緒に取り組み、内容の充実を図る。さらに読書カードを活用し、児童の読書活動の交流を行う。 (「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組) (学校図書館の活性化)</p> <p>指標 各学期ごとの読書週間にについて、図書館補助員や図書ボランティアと計画を共有し、一緒に取り組み、児童の読書への意欲を高める。</p>	A
<p>取組内容④【基本的な方向番号 8、生涯学習の支援】 学習内容に応じて、学校図書館の本を活用し、調べ学習に取り組む。必要に応じて、市立図書館と連携し、団体貸出などを利用する。 (「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組) (学校図書館の活性化)</p> <p>指標 学校図書館やその蔵書を活用した授業を月に数回行うようにする。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析

年度目標

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の72.0%（令和6年12月まで）であり、目標を若干下回った。
- 「ゆとりの日」を週1回以上設定し、学校閉庁日については、夏季・冬季休業中に3日以上設定した。また、年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にすることができた。
- 大阪市小学校学力経年調査結果が届いていないため、現時点では結果の分析を行うことができない。

取組内容①タイピングや電子読書など、学習者用端末を活用した取り組みについては、朝の学習の時間や雨天時の休み時間などに行うことができた。特に、タイピングを続けたことは、学習者用端末を使った調べ学習などを行う際の力として成果が出ている。しかし、プログラミング学習においては、今年度は十分に取り組むことができなかった。

取組内容②教職員に計画的に休暇等取得するように声かけをするとともに、休暇を取った教職員のカバーを組織で行ったことで、各自年次有給休暇を順調に取得することができた。

取組内容③年間3回の読書週間を計画通り行うことができた。また、図書館ボランティアや地域の読み聞かせ隊とも連携することで、子どもたちの読書活動が豊かなものとなった。児童の読書への意欲を高めるために、学年に応じた読書カードを活用して、読んだ本を記録することができた。読書カードは家庭との共有を図り、「大阪市子ども読書活動推進計画」の周知とともに、読書活動の充実につなげることができた。

取組内容④「学校図書館やその蔵書を活用した授業を月に数回行うようとする」という指標に対しては、おおむね行うことができている。不定期ではあるが、図書の活用を必要とする単元に合わせて、学校図書館の利用や学級貸し出しの活用を行うことができた。また、市立図書館の団体貸出も活用し、学びを深めることができた。

次年度への改善点

年度目標

- 次年度以降も、学級での日々の活用を習慣化できるよう継続指導していく。
- 【取組内容②】参照
- 大阪市小学校学力経年調査の結果をもとに分析を行い、改善点を整理し、教育活動に反映させる。

取組内容①学年の実態に応じた系統的なプログラミング学習に取り組めるように、計画を立てていく必要がある。

取組内容②引き続き、年次有給休暇の効率的な取得と、平素のICT機器を活用した授業準備や生活指導などの業務の効率化を図ることで働き方改革を進める。ただ、学校行事や様々な対応により、日々の勤務時間にはばらつきができるので、組織立て公務に取り組めるような体制づくりとバックアップできる校内体制づくりを今後も整えていく必要がある。

取組内容③次年度も、読書週間の取り組みを活性化させたり、図書館ボランティアや地域の読み聞かせ隊の方と連携を図ったりしながら、読書活動を豊かなものとなるようにしていく。

取組内容④次年度以降も、「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組を続けていき、読書活動が充実したものとなるようにする。

令和 6 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立東井高野小学校学校協議会

1 総括についての評価

全国学力・学習状況調査や全国体力・運動能力、運動習慣等調査、大阪市小学校学力経年調査の結果や、学校評価アンケート（児童・保護者）から細かな分析をしており、学校が子どもたち一人ひとりを大切にした教育活動を推進していることを理解することができた。今年度は学校協議会を計画通りに 3 回開催でき、学校運営に大いに参画することができた。本年度の学校の自己評価結果は概ね妥当である。来年度の取り組みに生かしてもらいたい。

- 【安全・安心な教育の推進】では、学校の年度目標は概ね達成された。いじめや不登校への対策を始めとした、児童にとって「安全・安心な教育」の推進は重要な課題であり、今後も重点的に取り組んでほしい。
- 【未来を切り拓く学力・体力の向上】では、学校の年度目標は概ね達成された。特に、全国体力・運動能力、運動習慣等調査は体力合計点で男女とも全国を上回ったことは、地域子ども会や学校の取組の成果と考える。今後も、ＩＣＴの活用などを通じて授業改善を図るとともに、家庭学習の充実についても推進してほしい。また、健康教育や食育では、朝食や手洗い、ハンカチ携帯への啓発を主体的に推進してもらいたい。
- 【学びを支える教育環境の充実】では、学校の年度目標は概ね達成された。教職員の働き方が、真にゆとりのあるものになっているかを、業務内容だけでなく、教育現場のニーズに合った人員構成となっているかなど、さまざまな角度から検証し、学校の活性化につなげてい

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

- 全国学力学習状況調査における「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合 100%をめざす。
- 全国学力学習状況調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和 6 年度全市目標(81.2%)以上にする。
- 学校の年度目標の達成状況の評価に関しては妥当である。
- 「いじめ」問題に関しては、所謂「いじめ」事象のみに焦点を当てるのではなく、児童が、弱い立場の人を助ける視点をもてるような実践を学校教育する必要がある。いじめ、不登校対策としての実態把握（心の天気、アセス）の方法については、調査の重複等もみられるため、改善の余地があるのではないか。
- 児童の自尊感情や自己肯定感については高い水準を保っており、たて割り班活動などの豊かな体験を積み重ねていることがうかがえる。定量的な指標に加え、定性的な評価の観点をもつことで、児童の実態に即した、取組の達成状況を知ることができるのでないか。
- 安全教育の推進については、発達段階に応じたきめ細やかな指導を期待したい。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 校内調査における「授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合 100%をめざす。
- 全国学力学習状況調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和 6 年度全市目標(34.8%)以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を令和 6 年度全市目標(62.3%)以上にする。
- 校内調査における「正しく手洗いをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度水準(前年度同調査 96.5%)にする。
- 校内調査における「いつもハンカチを身につけている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度（前年度同調査 86.6%）以上にする。
- 校内調査における「給食の月目標を守ることができましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

- 学校の年度目標の達成状況の評価に関しては妥当である。
- 児童の学びに向かう姿勢を高める「プラスノート」の取り組みにおいて、アンケート結果より学校でも継続した取り組みの成果が表れないと評価できる。一方で、課題として挙げられた、高学年児童の自主学習への意欲を高めるための取り組みについては、家庭との連携も含め、なお一層の工夫が必要である。
- 校内研究や学力向上への取り組みについての評価が「目標通りに達成した」ということであるが、「目標を上回って達成した」とは、どういう状況であるのかを明らかにされたい。
- 健康教育・食育の項目に関しては、日々の取り組みの成果が良好なアンケート結果に反映されており評価できる。健康や食育に関しては、家庭との連携が不可欠なので、学校からの啓発にも期待したい。

年度目標：【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。
- 「ゆとりの日」を週1回以上設定する。年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。学校閉庁日については、夏季・冬季休業中に3日以上設定する。
- 令和7年度の大阪市小学校学力経年調査における「学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行いましたか」に対して、「週に1回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合を令和7年度全市計画目標(80%)以上にする。
- 学校の年度目標の達成状況の評価に関してはおおむね妥当である。
- 児童の読書への意欲づけについては、学校アンケートや保護者アンケートからも大きな課題があると感じる。取組内容の達成状況についても、シビアな評価でもよいと感じた。学校現場においても、危機感を持って取り組みを継続してもらいたい。
- 学習者用端末が効果的に活用されていることが確認できたが、児童がICT機器を活用する上のデメリットについても、しっかりと検証していただきたい。
- 教員の働き方改革については、学校現場に人が足りていないという現実がスタートラインである。人的にゆとりのある学校組織となるよう、国、地方自治体が危機感をもってスピード一に取り組んでくれることを切に願う。

3 今後の学校の運営についての意見

- 今年度、学校協議会は計画通り3回開催できた。学校協議会では「運営に関する計画」をもとに、委員の活発な意見交換を行うことができ、学校への運営に大いに参画できた。
- 不登校、いじめに関する情報共有を行うことで、地域としてできることを一緒に考え、子どもの健やかな成長に資する取り組みを今後も進めていきたい。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果からも、数値化できない意欲面も体力の向上には欠かせないことが明らかである。今後も学校と連携し、体力や健康の増進への取り組みを推進したい。
- 学校評価に際し、数値化できないものについては、児童の実態に即した適切な評価を行うよう工夫していただきたい。
- 学校運営に関して適宜、意見具申を行い学校・教職員を支えていきたい。